

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2672700297		
法人名	社会医療法人社団 正峰会		
事業所名	モンファミリー舞鶴(東棟)		
所在地	舞鶴市大字和田小字中田1065		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	平成30年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=2672700297-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=2672700297-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・地域へ広報誌を作成し、ホーム内の様子等を知って頂けるように配布を行なっている。今年度は地域での清掃や、小学校、中学校の廃品回収に参加させて頂き、地域に向けて進んで活動し、また地域包括ケアの勉強会に取り組み地域との交流を深めている。  
 ・ご利用者が、できるだけ家庭に近い環境で安心、安全に生活できるよう、ご家族との信頼関係を築けるように努めている。  
 ・ご利用者と、ご家族の情報を考慮したケアプラン作成と実践により、個人の思いにお応えできるように努めている。  
 ・併設する老健との連携を密にとることにより、ご利用者の生活と健康管理は充実したものとなっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは、利用者の笑顔に向け利用者のできることや楽しみ事を大切に支援し、家族と協力しながら馴染みの場所への外出や園芸に取り組むことで五感を刺激し生き生きとした暮らしに繋がっています。民家とは少し離れている立地ですが地域との繋がりを大切に考え、併設施設と合同で開催する夏祭りには中学生のボランティアの来訪があり、民生委員や婦人会等の地域の方も来られ楽しんだり、小学生と中学生が行う廃品回収への参加、保育園や小学校の運動会の見学を楽しむなど徐々に交流が増えています。職員間の関係性は良くケア会議でその人らしい暮らしの支援に向け話し合い介護計画を立てると共に記録様式を工夫し実践状況がよりわかりやすくなっています。週に2回の往診や看護師による毎日の健康管理を受け、医療連携も充実し看取り支援にも取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を定め、スタッフルームに掲示し実践している。また、朝礼時、理念の唱和に努め職員間で共有している。	ホーム独自の理念として「笑顔とぬくもりのある暮らしの中で一人ひとりが自分らしく生きる」と掲げ、理念にそった目標と共に事務所に掲示し、毎日朝礼で唱和しています。入職時に研修で理念の大切さを周知しています。理念にそって毎年度の事業計画を作成し取り組むと共に、毎月のケア会議でその人らしい暮らしの支援に向け話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家と離れているため、日常、地域との付き合いは無いが、施設行事へのボランティアとして婦人会や民生委員、中学生等の参加がある。また、買い物、神社への参拝、散歩、地域での催しに出向く機会を設けている。	併設施設と合同で開催する夏祭りには中学生のボランティアの来訪があり、民生委員や婦人会等の地域の方も来られ、一緒に楽しんでもらっています。地域のスーパーへの買い物や移動スーパーの来訪も利用者の楽しみの一つになっています。また傾聴や歌、体操、生け花等のボランティア受け入れも行っています。小・中学生が行う廃品回収に参加したり、保育園や小学校の運動会の見学を楽しむなど、徐々に交流が増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、認知症サポーター養成講座の開催を2回計画。地域包括ケア推進委員会で、地域に向けて集会所などで勉強会を行なっている。また、「シルバー110番」を開設し、誰でも相談できる窓口として公表している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催している。ご家族代表にも参加頂き、日頃のサービスと取り組みや、運営状況について意見を聞きサービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議は利用者や市職員、民生委員、婦人会会長、介護相談員等の参加を得て2か月毎に開催しています。ホームの運営状況や行事、研修等の報告を行い、参加者から意見やアドバイスをもらっています。地域の情報を教えてもらったり、ホームの行事の時期についてアドバイスをもらい反映するなど有意義な会議になっています。	今年度は家族の参加が得られませんでした。が、来年度に向けて準備しています。家族の参加が交代でも参加ができるよう取り組み、実現されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市の職員に参画いただいている。市町村担当者に毎回、議事録を送っている。	法人を通じて制度上のわからないこと等を市に聞いており、書類のやり取りも定期的に市職員の来訪があります。研修案内がファックスで届き職員の参加に繋がったり、介護相談員の意見交換会に出席し協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。扉の開閉時にはチャイムが鳴りご利用者に危険が無いように努めている。委員会を通して、内部、外部研修を受講し、振り返りを行い理解する事で、職員の意識の向上と身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	年に一度は身体拘束についての法人内研修を受け、身体拘束廃止委員を通じて注意喚起をしています。玄関やユニットの出入り口は施錠せず、チャイムや見守りで安全に過ごせるよう支援し、外に行きたい様子の利用者にはできる限り付いて出たりドライブに行く等の対応をしています。言葉による制止にも注意を払い、声のかけ方の工夫で拘束感を感じないように配慮しています。	

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修を積極的に受講し、棟会議等で他職員へフィードバックを行い、虐待防止予防を理解し意識を持つように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は何れも対象者なく学ぶ機会も少ない。高齢等を理由に利用者代理人の継続が困難となった場合、職員が制度について理解し関係者に引き継いで頂けるよう学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にあたっては、ご家族に来訪願いや契約書や重説の内容説明を行い、疑問点を伺っている。改定時は書面での説明となるが、電話での問い合わせ窓口と担当者を明記し、疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を掲示している。また、ご意見箱を設置し、苦情や希望など意見を伺う。伺ったものは報告書にあげ、検討し対応している。他、年1回顧客満足度アンケートを実施し接遇面や事業計画に反映している。	年に4回発行する広報誌や毎月の便りを家族に送りホームや利用者の様子を伝え、満足度アンケートを行ったり面会時にコミュニケーションを図り、意見や要望を聞いています。意見を受けて運営推進会議の内容を伝えるようにしたり、居室の臭気対策に取り組むなど、サービスの向上に活かしています。また、家族から友人による野点の提案があり、行事として行えたこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回管理者と職員が面談を行う機会を設けている。毎月の棟会議や業務報告書等で意見を聞く事が出来ている。また、個別で相談や提案等を聞く事が出来るように努めている。	毎月職員会議を行い業務改善を中心に意見交換を行い、レクリエーションの時間帯や入浴の担当などを全員が意見を出せるように配慮し話し合っで決めています。日々意見を言いやすい関係作りに努めており、更に年に2回管理者と個人面談を行い、意見や思いを伝える機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人々の目標管理し半期ごとに評価・指導を行なっている。研修参加を推奨し、その費用は全額施設負担で勤務扱いとし、参加できるよう調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回は研修参加できるよう案内している。それぞれの役割に有った研修を受ける機会の確保に努めている。また、個々の力量に合わせて、役割分担表を活用している。		

モンファミリー舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム連絡会や舞鶴市グループホーム連絡会、または法人内グループでの会議の中で交流の機会を持ち、意見交換の場を作りながら良い所は取り入れている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際、ご利用者と面談し意向を聞くように努め、入所後も小まめに声かけしを行っている。話を傾聴するように行なうと共に、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居者との面談時や、入居調整時等にご家族の要望等をお尋ねし、入居者、ご家族との不安や思いを共有するところから、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者、ご家族との面談後の情報をアセスメントシートに反映させ、何を必要とされているのか客観的に見て課題を抽出し、本人に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という認識で、同じ空間で過ごしている。アセスメントシートにて、ご本人が出来る事、出来ない事を把握し、毎日の生活の中場で役割をもち支え支えられる関係で生活を送って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月お送るメッセージカード等で近況を伝えている。施設内外の行事や家族会には参加頂けるようご案内している。また、入居者様とご家族の間に入り思いを傾聴し関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「家を見に行きたい」「カラオケに行きたい」と希望されれば、そのような機会を設け、馴染みの方とも合えるように支援している。また、ご近所の方が面会に来られる時もある。	日々の利用者との会話の中から行きたい所を聞き自宅を見に行ったり、馴染みのスーパーへ買い物に行くこともあります。家族と墓参りや孫の結婚式に出かける方にはスムーズに外出できるように準備等の支援をしています。友人の来訪時には居室でゆっくり過ごしてもらえるよう椅子の準備やお茶を出しています。	

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や相性等を把握し考慮した上で座席を配置している。また、個々の状況を見て、和室で過ごして頂くなど、臨機応変に対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は入院退去者6名あり。入院時に、ご家族や医療機関と連携を図り必要な支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、思いや希望を聞くようにしている。聞き取りが困難な場合は、何気ない言動を記録し、ご家族に尋ねる時もある。職員間で共有し、その人らしく暮らせるよう努めている。	入居している施設で面談を行うことが多く入居前に本人や家族から生活歴や習慣、好み等について聞き、また施設からサマリーをもらったり家族に書面に望む事などを書いてもらい意向や思いの把握に努めています。入居後日々の関わりの中で得られた気づき等を毎月ケア会議で話し合い、意思疎通が困難な方の意向も汲み取れるように検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の主治医やケアマネ等からの情報提供やご家族からの生活歴を聞き取り、バックグラウンド等から把握、理解し支援するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をはじめ、毎月のケア会議等で、随時把握し共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	電話や面会時にご家族から要望を聞いている。介護計画書に基づいたケア会議を月1回実施し、ケアプラン会議で計画書の内容を検討し作成している。	利用者や家族の意向、アセスメントの基介護計画を作成し、入居後1か月で再評価を行い見直しています。以降利用者の状況に合わせて1~6か月の期間を決めて見直しています。日々計画にそった記録を行い、毎月モニタリングをケア会議で実施し、変化があれば都度見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い家族の意向を聞いたり医師等に意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人ケア記録に記載し、職員間で情報共有している。事故があれば、治癒するまで記録し、状態の変化がある場合は、また介護計画書を見直している。		

モンファミリー舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健と連携を図りながら、ニーズに沿う事が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校、中学校、、婦人会ボランティアなどの訪問を受け、交流ができています。また、買い物や地域に出かける機会を積極的に持ち、地域の催し物に出かけたり、地域の一員として楽しんで頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族に医療機関を確認している。受診が必要となった際は、本人とご家族の意思を尊重し、必要な情報提供の上最善と思われる受診をして頂けるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、継続している利用者は家族と受診し情報交換は口頭で行い、家族の対応ができない時には職員が支援しています。協力医は週に1~2回の往診があり、看護職員は毎日健康管理を行っています。体調不良の際には看護職員に状況を伝え対応してもらい、必要に応じて医師と連携しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は記録に残し、看護職に報告し、その都度相談をしている。また、看護師の指示を受ける事としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、ご家族との連絡を密にし、職員が病院へ面会に行った際には、看護師等と情報を交換しホームに持ち帰り共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、ご本人及びご家族の意向を医師同席のもと説明、確認し同意を頂いたうえで書面化している。ご家族と話し合い、想いを共有し看取りに取り組んでいる。また状態の変化に応じその都度看取り介護計画書を見直している。	ホームの重度化対応に関する指針に基づき、意向に合わせて医療体制を整え対応することを説明しています。重度化に伴い医師が判断し家族と看護師、介護職員等と話し合い、方針を決めて介護計画を立て家族の協力も得ながら連携を密にし支援に取り組んでいます。家族とはコミュニケーションをとる中で意向を確認しています。また看取り支援についての研修を行い、看護師や管理者が職員の相談を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、実際に対応を行なった時は、その振り返りを行なっている。また、マニュアルだけではなく救命救急講習等に定期的に参加し実践に備えている。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時に地域の消防団にも参加して頂けるよう協力をお願いをしている。原子力災害対応マニュアルを整備している。また京都府災害警報情報等、確認できる様にしている。9月の台風で併設老健に非難した経験を基に、現在マニュアルを作成中。	年に2回隣接する施設と合同で昼夜の火災を想定し、通報や初期消火、避難誘導の訓練を実施しています。訓練には地域の消防団の参加を得ており、年に1回は消防署の立ち会いの下実施しアドバイスを受けています。土砂災害や原子力災害についてはマニュアルを整備し、今年度は台風の際に隣接する施設へ避難した経験を基にマニュアルの見直しにもつなげています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが毎月接遇目標を立て、朝礼時に唱和し接遇に取り組んでいる。人格を尊重した対応や職員同士の会話に気をつけるよう心掛けている。	毎年行う接遇マナーや虐待防止についての研修等で、個々の利用者の尊厳や人格を尊重した対応について職員は学んでいます。接遇委員会による年度目標や個人目標を掲げ、業務報告書にて振り返りの機会も作っています。馴染みのある方言で優しく丁寧な対応を心がけ、利用者の様子や関係性に合わせた対応をしています。不適切な対応があれば会議等で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で要望をくみ取り、カルテに記録・共有したうえで職員全員で検討し自己決定して頂けるように働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように支援しているが、外出(散歩を含む)については、可能な限り付き添うように努めている。一つのわくにはめず個性をなくすことなく、個々のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等はご家族に用意して頂いている。理美容は隣接老健に出入りしている業者を利用。ご家族が馴染みの理美容に連れて行かれたり、ホーム内で家族様が散髪される事もある。可能な方は衣類を自分で選択し化粧をされる方も居られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作る機会を設け、入居者それぞれの力量に合わせて準備等してもらっている。片づけは、「やりたい」と言われるご利用者が、毎食役割として職員と共にされる方も居られる。	3食とも法人の施設から運ばれてきており、職員も一緒に食べ給食委員会で利用者の意見や要望を伝え反映できるようにしています。毎日の夕食時のみそ汁は一緒に手作りした味噌を使い、桜餅などの手作りおやつは利用者のできる事に携わってもらっています。外食行事として寿司やバイキングに出かけたり、家族の協力を得て個別に外食に行く方もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は、管理栄養士によるバランスの取れた食事を提供。摂取量を日誌に記録している。水分は1日1000ml以上を目標に水分摂取の支援しているが、嚥下状態や摂取量によっては、ポカリゼリーやお茶ゼリーで補っている。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて実施できる方はして頂いている。就寝時は、義歯を洗浄剤に付けて頂くよう声掛け支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でパターンを把握し、ひとり一人に合った生活リズムやパット、排泄時間を考慮し誘導に努めている。また、テナのオムツを一部導入しており、睡眠を妨げない配慮も行なっている。	排泄チェック表を基にパターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。利用者の習慣やその人に合った排泄用品の選択、支援方法についてはケア会議で話し合い、失敗が減り布の下着に変更したりポータブルトイレを使用する等自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、腹部を温めたりマッサージを行ったり、また身体を動かす機会を持つようにしている。便秘が持続するようであれば看護職に相談して対応を検討している。また、乳製品などを多く取って頂けるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の希望や入居者やご家族の都合により変更している。随時その日の状況で対応している。入浴剤を使用し、色や香りを楽しませている事もある。	入浴は利用者の希望を聞きながら週に2回は入れるよう支援しています。午後からの入浴が基本ですが午前や夕食後の入浴も希望に応じて体制を作ることが可能です。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯を楽しんでもらったり、重度になっても安全に入れるように特殊浴槽も整備しています。拒否される方はタイミングや声のかけ方を工夫し無理のない入浴に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に定めておらず一人ひとりに合わせて対応している。日中も、状況に応じて自室に戻り休息の時間を設けている。室温、照明、布団など個人の希望を尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量についてファイルにて管理し理解している。服薬の支援や症状の変化については、個人記録や業務日誌で確認できるようにしている。服用の際は側を離れず飲み込まれるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	隣接する老健で実施されている映画鑑賞会や生け花教室等に参加したり、付き添いのもと散歩をしている。また、出来る方は食器洗いや片付け、洗濯物たたみ等家事に取り組まれている。歌が好きな方は気分よく唄えるよう支援している。		



モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り散歩などの希望に添えるように努めているが全員ではない。個々に合わせて、事前に外出の計画を立てて実施している。また、ご家族と一緒に食事に出かけられる時もあり、楽しく出かけられるように努めている。	天気や気候の良い時にはホーム周辺に散歩に出かけ、時にはテラスでお茶を飲んだり外気浴を楽しんでいます。季節ごとに全員が行く初詣や花見ドライブ等の外出行事の他、数人で花火大会や成人式を見に出かけています。また、誕生日には希望を聞き、買い物や外食などの個別外出も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお預かりしていない。買い物などで購入された場合は事業所で立替え、後日ご家族にお支払いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに事業所内の飾りを変えたり、導線を考え混乱のないようテーブルの位置を配慮している。またトイレ等、使用した際は消臭スプレーやお香を利用し不快なく過ごせるように工夫をしている。	リビングは天井が高く掃き出し窓からテラスに出ることができ、明るく開放感があり海が眺められる環境にあります。テラスにベンチを置いたり、リビングにもソファや畳スペースで利用者が思い思いに過ごせる空間を作っています。ひな人形などの季節の飾りや利用者が活けた生花が飾られ季節を感じられるように配慮しています。また加湿器を複数台置き大きな温湿度計でいつでも確認しながら調整し、毎日掃除を行い快適な空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時は居室で過ごして頂いたり、和室やリビングで気の合ったご利用者と過ごしていただけるように座席の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に何をもち込まれても良いとお伝えしている。好みのぬいぐるみや家族の写真等を飾られたり、仏壇や長年使用されていたソファーを持ち込まれている方もいる。	入居時に馴染みの物を持参してもらうよう伝え、自宅で使っていた椅子やテレビ、大切にしている仏壇などの持って来たものを過ごしやすいよう配置しています。写真やドライフラワーなどを飾ったり、ラジオやカラオケのカセットテープ、以前利用者が作ったセーターやひざ掛けなど馴染みの物を置いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の妨げにならないように家具の配置等配慮している。入居者の声掛けや行動を見守りながら、何をしたいのか気づき、個々の生活の支援を行う。また、1人ひとりのケアの統一化に努めている		